

## 奈良地方気象台長からのメッセージ

奈良地方気象台のホームページをご覧ください、ありがとうございます。台長の平野喜芳（ひらのきよし）です。着任2年目となります。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

奈良地方気象台は、明治30年(1897年)に高市郡八木町(現在の橿原市)に設立された奈良県立八木測候所が前身です。昭和28年(1953年)に奈良市半田開町に移転し奈良測候所と改称、昭和32年(1957年)に奈良地方気象台に昇格、平成29年(2017年)3月に現在の西紀寺町に移転しました。移転の関係で統計が1953年以降となりますが、奈良でも年平均気温が50年あたり約1.0℃上昇しており、特にここ数年は毎年のように最高値を更新しています。温暖化に伴い、高温への適応策が求められる他、大雨の激甚化や日本近海での台風の勢力増大が予測されており、一層災害に対する備えも必要となります。地球温暖化についてぜひ関心を持っていただければと思います。

地震では、南海トラフの巨大地震の発生の可能性が今後30年で70～80%と高まっている他、奈良盆地東縁断層帯をはじめとする県内や周辺の主要な活断層で直下型地震が起ると最大震度7の揺れに襲われ甚大な被害の発生が予想されます。大地震がいつ発生しても対応できるように日頃の備えが重要です。

昨年度、奈良県内39市町村を訪問し各市町村長様と懇談させていただきました。平成23年(2011年)の紀伊半島大水害や昭和57年(1982年)の大和川大水害等、過去の大きな災害を踏まえて各自治体とも防災にも力を入れて取り組まれていることを実感しました。奈良地方気象台では引き続き今年度も各市町村と連携して地域防災支援にしっかり取り組んでいきます。



令和4年(2022年)4月1日

奈良地方気象台長 平野喜芳